

おお大勝利

令和5年度 山東サッカー部報第9号 (3月22日) **部報最終号**

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

すべての関係者の皆様 大変お世話になりました

皆様ご無沙汰しております。前号が10月31日発行ですので、5か月弱ぶりの部報発行となります。11月の1年生大会をインフルエンザの流行により棄権してしまいましたので、試合の報告はなく。こんなタイミングですが、新年あけましておめでとうございます！

さて、新年号でいつも行っていた顧問今野の残留確率について、令和6年度は5%、異動確率95%となっております。10年前に（山東8年目に）75%から始められ、11年残ることはないだろうと年間7%ずつ減っていく計算式で始められました。10年で70%減って、来年度は5%でした。

そして、ここまで残留確率が減ると、やはりという感じで、次年度から異動となりました……。山東18年で終了、この部報も今年度で終了ですし、これが最終号となります。**今までご愛読ありがとうございました**。結構意外なところから「読んでるよ」なんて言われることがあって、書きがいがありました。最近サボることが多く、発行数が少なくなっておりますが、お許してください。

私は決して温和な指導者ではなかったので、これまで多くの部員・保護者にご迷惑をおかけしてきたかと思えます。この場を借りてお詫び申し上げますとともに、皆様のご寛恕に感謝申し上げます。また、**OBOG諸君は、顧問交代いたしますが、引き続き山東サッカー部の後輩のために気軽に練習に顔を出してもらいたいと思います**（8月第一土曜日がサッカーフェスティバルの日ですからそれもお忘れなく）。

新しい職場は、東根市にある中高一貫校の東桜学館高校となります。**異動先でも、山東サッカー部の活躍を祈念していきます！**

皆様、これまで本当にありがとうございました！！！！！！！！

後援会納会 賑やかに開催

12月14日（木）市内の**中島商店**にて**サッカー部恒例の納会**が開かれました。この納会は、**元後援会長の故武田栄四郎先輩**や**元副会長で先日ご逝去された奥山先輩**らの発案で40年ほど前から開催されるようになった会です。私も高校生の際に参加した記憶がある。

後援会（OB会）の皆様が現役生を呼んですき焼きを振舞いながら、優秀選手に賞を贈り1年間の活動を労いつつ、翌年に向けて（3年生には受験に向けて）激励して下さる、そんな場として脈々と受け継がれて参りました。

そこで発表されるのが、2023年シーズンの優秀選手。今年は下の5名が選ばれ、優秀選手賞を授与されました。岸後援会長や清野名誉会長、後藤報道局長、後藤事務局長、佐藤事務局次長らの激励を受け、3年生は受験への意欲を語り、2年生代表が来シーズンの抱負を述べました。**後援会の皆様、ありがとうございました。**

平山 龍輝

クラブ出身で兄も山東サッカー部に在籍。入学当初は、クラブ出身なのに技術的にかなり厳しいという印象。体も弱く、足も遅く、何もない選手かのようなだが、入学当初より負けん気だけは強かった。自分より強い相手、デカイ相手にひるまず体を当てに行って守備のできる頼もしい選手だった。その長所を3年まで伸ばし続けたサッカー部生活だったように思われる。とにかく、ガツガツとプレーするMFだった。攻撃で華麗に配球するという中盤の選手ではなかったが、攻撃でも彼がいるとなぜか攻撃がスムーズになる。クレバーでルーズボールへの読みが良いのだろう、高い位置でボールを確保し、足の速い選手を使うから、2年の時にはトップ下で活躍。3年ではボランチへと一列下げ、より守備能力の生きるプレーをした。肩に脱臼癖がついてしまったが、自分で再び入れ、プレーに戻るメンタルの持ち主だった。スキルの伸び代だらけだけに、大学サッカーでも医学部サッカー部に入り、向上を目指してほしい。グラウンドマネージャーとして、練習を組織した功績も大きい。

木村 俊希

カルロスという山東サッカー部でついたあだ名が一般生徒はおろか教員にも定着した選手。他校の顧問からも、名前とグアテマラ辺りの出身を思わせる風貌からか愛された。プレー面では、技術的にかなりお粗末なところがあり、幼少期からのコーディネーション能力の低さを思わせるぎこちない体の使い方が目立ったが、天性のスピードがあり、左サイドを駆け上がり、途中出場ながら得点も決めた。彼が仲間を鼓舞する声をかけながらピッチに立つと、ピッチ内の選手が勇気づけられるばかりか、ベンチや応援席も盛り上がった。皆に愛される何かを持った選手だった。技術的にも向上が見られ、多少はヘディングできるようになるなど、高校サッカーでの努力をうかがうことができた。性格の良さ、競技への真摯さを買われ副主将に就任、生意気な下級生を苦労してまとめている主将を支えた。また、応援団員がいなかったため、顧問の誘いから応援団に入団し、サッカー部との両立を果たした。サッカーでも応援団でも、全体の中で自分の役割を見出し、実践できる人間だった。ただ、今後は、もっとエゴを出し、カルロスの世界を作り上げてほしい。

高山 歩慧

出身のクラブの指導者から、「サッカーはまだただ性格は良いです」との報告を受けて入部してきた選手。確かに技術的に甘く、上背くらいしか取り柄のない選手だった。それでも選手層の薄い山東の中で、1年次に途中交代で試合に出たが、そうそうに骨折してしまう不運に見舞われる。2年では腰椎分離症になり、冬の期間を棒に振った。故障期間が目立った。しかし、素直な性格、サッカーへの真摯な思いがあり、努力を重ね、2年生くらいから左サイドを主戦場に存在感を発揮。素早い出足で相手のパスをインターセプトし、豪快にオーバーラップ。本人も自分の持ち味を理解しだして、サッカーがより楽しくなった2年次だったのではないかと。腰痛のブランクがあり、3年のシーズンでは2年次のイメージを追いかけるようなプレーが目立ったが、県総体鶴岡東戦ではこれまでの彼の努力が報われるような好プレーで、高校サッカー生活を締めくくったように思われる。惜しむらくは、上背を活かした豪快なヘディングシュートなど、もっと見たかった。それは大学サッカーでの課題にしてもらいたい。グラウンドマネージャーとして、練習を組織した功績も大きい。

細矢 航佑

中体連ながら GK 経験者。しかし、入部時は、GK 経験半年の上級生よりも技術的に未熟であり、GK の基本動作が全く身につけておらず、悪い癖がついていて、改善には長くかかることを覚悟させた。簡単なハイボールもトスしたりスパイクしたり、まるでバレーボールをしているようだった。しかし、フィジカルの能力は高く、能力を持って余している印象だった。そんな出だしだったが、ストイックな性格を持ち、試合に出場できなくとも真面目に練習は続けた。すると、少しずつ GK の基本動作が身につけていき、無用に焦る悪癖も少しずつ改善されていった。やはりフィジカルはあるので、シュートストップでは反射神経の速さと筋力の強さから、3年次では好プレーが目立った。ブレイクアウェー(1対1)の質、ハイボールの対応の質にまだまだ伸び代が多いが、先発としてピッチに立った選手の中では一番伸びた選手と評価している。盟友坂井が一番伸びたと評価しているが、坂井も航佑なら表彰に値すると認めてくれるだろう。大学でもサッカーを続け、先輩ジャッカルと同じ大学サッカー部で GK 練習をする姿など、見て見たいものだ。

佐竹 大和

整形外科医をしている山大医学部サッカー部監督で、顧問今野と同期の選手を父親に持つ。入部時から注目の選手だった。コミュニケーション能力の高さ、サッカーを言語化して戦術を語るができるインテリジェンスから、即戦力のボランチの選手と期待させた。しかし、四方八方を敵味方に囲まれ、情報量の多さに対応する処理能力が求められるボランチというポジションをこなすには、頭がついてこず混乱が目立った。1年次はボランチで起用されることが多かったが、2年次に本職の CB に一列下げられると、水を得た魚のように好プレーを連発。フィジカルの成熟からくる力強い球際、右利きながら左足でフィードできる器用さで、チームを助けた。本当はボランチに未練があったのかもしれないが、チームに貢献できている充実からか、CB の起用に意気を感じて CB としての能力開発に努めた。2年次からは主将に就任。技術的に問題のある同級生、メンタル的に問題のある下級生を責任感をもってまとめた。練習で

もグラウンドマネージャーと連携し、山東サッカー部の最良の伝統である部の自主的運営を良く実現してくれた。大学では再び親子鷹を実現させ、山東サッカー部を鍛えてほしい。

冬の恒例学校合宿 2回実施

山東サッカー部冬の恒例の学校合宿、今年度も2回実施致しました。第1回が1月19日（金）～21日（日）、第2回が2月2日（金）～4日（日）。特に第2回は校内模試と重なりましたが、学校合宿の練習は早朝と夜なので、まったく問題なし。要は、降雪期間のためグラウンドが使えない中、体育管理の空いた時間に少しでも練習しようというわけ。

以前は、県外遠征にお金を使ってましたが、練習がままならないのに試合だけしに行っただけで得られるものが少ない。そんな思いから、始められた。コロナ前は、選手権も観に行きつつ、埼玉県の方々にお世話になってお正月の遠征を行っていましたが、活動縮小して、今に至っている。新しい顧問の方の強化方針によって、令和6年度の冬の強化は変わってくるかと思いますが、それはともかく、今年度は校内合宿を2回実施。

食事はこれまで、デーリックさんをお願いしておりましたが、デーリックさんがそういったサービスをやめたことから、**かがやき弁当**（山形市銅町）さんに昼と夜お願いし、朝は牛丼チェーン店で調達。選手には好評ですが、注文し受け取りに行くのが大変でした。

ちょっと、様々な理由で参加者が減ることがあり、強化もままならない雰囲気の中ではありましたが、きつい生活リズムの中心身への試練となる合宿であり、終わったときの達成感のある企画かと思います。

かがやき弁当さん、**佐竹・齋藤・高橋コーチ、芹川トレーナー、OBの海都くん**のサポートがあり、何とか2回実施できました。**後援会事務局長の後藤さん**(not 報道局長)からは、納会時にお米を差し入れて頂き、合宿のおにぎり用のお米として有効に利用させてもらいました。皆様、ありがとうございました。